

# 1. 宮崎県の自然条件と土砂災害

## 1.1 宮崎県の概要

本県は九州南東部に位置し、北は大分県に、西は九州山脈を介して熊本県に、西南は鹿児島県に隣接し、東は太平洋に面します。北緯 31 度 21 分から 32 度 50 分(南北約 160km)、東経 130 度 42 分から 131 度 53 分(東西約 70km)に位置し、人口 116 万 6 千人(全国比 0.92%)、面積 7,735km<sup>2</sup>(対全国比 2.05%)の県です(人口・面積ともに平成 14(2002)年 10 月 1 日現在)。

本県は全国都道府県のうち第 14 位の広さを持っていますが、山林原野が総面積の 76%を占めています。平地としては宮崎平野と西・北諸<sup>もろかた</sup>県盆地を有する程度です。県北部には祖母山、傾山の高峰が連なり、西部には国見山・市房山など、南北に走る九州山地と韓国岳、高千穂の峰を主峰とする霧島山がそびえています。これらを水源に五ヶ瀬川・耳川・小丸川・一ツ瀬川・大淀川など、幹線流路延長約 80km にわたる大小 10 余りの河川が太平洋に注ぎ、豊富な水資源に恵まれています。

また、年平均気温が高く、日照時間、快晴日数は全国でもトップクラスにあるなど、優れた自然条件を有しています。海岸線の延長は約 400km あり、県北に細島、県央に宮崎、県南に油津の重要港湾が存在し、延岡、古江、内海、福島等の港湾や、油津、目井津、島野浦などの漁港を有しています。

県の歴史は、明治4(1871)年7月、廃藩置県の令により日向を、延岡、高鍋、佐土原、飫肥、鹿児島、人吉の6県に分属し、ついで同年11月に大淀川を境として都城、美々津、八代の3県に分属されました。明治5(1872)年9月には、八代管下にありました米良 14ヶ村を美々津県に合併、明治6(1873)年1月に、都城、美々津の2県を廃して宮崎県が置かれました。明治9(1876)年8月には、一旦宮崎県が廃され鹿児島県に合併されましたが、日向分県の議が起こり県民一丸となった熱望のもと、ついに明治16(1883)5月、太政官布告第15号をもって宮崎県再置が発布され、同年7月1日、宮崎県庁が開庁され現在に至っています。

表 1.1 宮崎県の経歴

江戸時代	延岡藩, 高鍋藩, 佐土原藩, 飫肥藩, 鹿児島藩
明治4(1871)年7月	廃藩置県(延岡・高鍋・佐土原・飫肥・鹿児島・人吉)6県
明治4(1871)年11月	都城・美々津・八代の3県に分属
明治6(1873)年1月	都城・美々津の2県を廃し宮崎県設置
明治9(1876)年8月	一旦鹿児島県に合併
明治16(1883)年5月	宮崎県再置・宮崎県庁開庁

## 1.2 宮崎県の気候

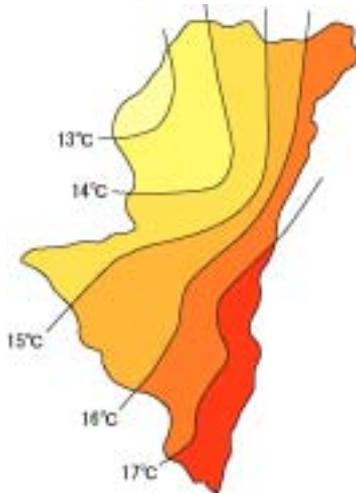


図 1.1 宮崎県の年平均気温分布図  
(宮崎地方気象台データを基に作成)

気候は南海型気候区に属し、県東部の海岸地方では年平均気温が 17 であり、日本で最も温暖な地帯に属しています。しかし、西部の山沿い地方では 15 以下で、関東地方の気候に等しくなっています。このうち、霧島山系のえびの高原では、年平均気温が 9.7 で、東北地方に等しい寒冷地であり、冬季には最低気温が氷点下 20 以下に下がることもあります。このように宮崎県は地勢が複雑なため、気温の地域差が大きくなっています。

また、平野部の日照時間は、年平均 2200 時間以上と多く、日本で最も太陽に恵まれた地域です。



図 1.2 宮崎県の年平均降水量分布図

降水量は県全域で年間に 2000mm 以上の雨が降り、年間降水量 2800mm 以上の地域が総面積のおよそ 3 分の 1 を占めます。全国平均値の 1718mm と比べてもかなり雨が降ることがわかります。特に霧島山系・鱈塚山系では 3000mm を超え、四国の太平洋岸、紀伊半島東部とともに、日本の最多雨地帯となっています。

霧島山系のえびの高原は、年降水量の平均値が 4804mm で、高知県上魚梁瀬の 4831mm に次ぐもので、6~7 月の合計降水量の平均値は 1650mm で、全国第 1 位となっています。

このほか気象について特筆すべきことは、竜巻の発生が日本で最も多く、負傷者、家屋倒壊、船舶破損等の被害を多く出してきたことです。発生する竜巻の 74% が台風接近の時に発生し、そのうちの 6~7 割が、宮崎市を含まずか 800km<sup>2</sup> の宮崎平野での発生となっています。

大型の強い台風が九州南西海上から接近し、台風の北側にある帯状に並んだ積乱雲が宮崎平野にかかり、強い雨が断続的に降り、東よりの風が吹き続ける時に、竜巻が発生する恐れがあります。

宮崎地方気象台データを引用・参考とした。

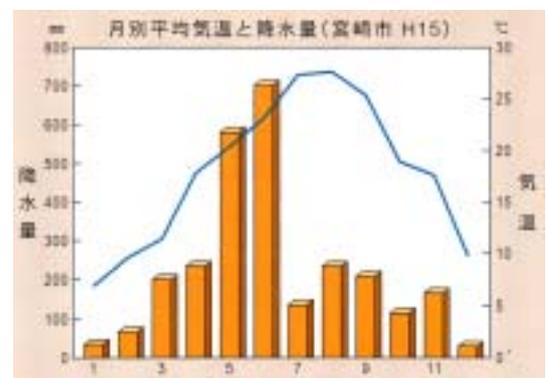


図 1.3 宮崎市の月別平均気温と降水量

### 1.3 宮崎県の地形・地質



図 1.4 宮崎県地形分類図  
(宮崎県ウェブサイトの衛星画像に加筆)

地形は、北部に北東 - 南西に延びる標高1000 ~ 1700m級の九州山地があり、その東側に宮崎平野が広がります。海岸線は日向市美々津付近を境として、北は屈曲の多いリアス式海岸、南は直線状の砂浜海岸となっています。

県南部は北部に比べてより複雑な地形を呈します。加久藤 - 紙屋間には、西北西 - 東南東方向の凹地帯があり、九州山地はこの凹地帯で断ち切られています。また、宮崎平野の南西には、北北東 - 南南西方向の南那珂山地があり、その西側には、同じ走行をもつ都城盆地が形成されています。南部の海岸線は岬や入り江に富んでいます。県南西部には、主峰韓国岳(標高1700.06m)を始め新燃岳、大浪池、高千穂峰、御鉢等、大小20余りの火山から構成される霧島山地(火山群)が存在します。



図 1.5 宮崎県地質図

地質は、日本列島の地質構造上の区分では、西南日本外帯に位置し、県北西部は秩父帯に、他の広大な地域は四万十帯に属しています。

県内の地質を大別すると、県北西部の高千穂町、五ヶ瀬町付近に古生層が露出し、県北東部から県中部の大部分の広範囲を、中生層と古第三紀に属する四万十累層が占めています。

県南部は古第三紀層を主とした日南層群(四万十累層)からなっています。県中部から南部にかけての宮崎平野と、その南側の鰐塚山地の海岸部には、宮崎層群が広く分布します。

第四紀の火山活動により、県北西部の五ヶ瀬川上流には阿蘇火山の噴出物が、県西部には霧島火山の噴出物がこれらの地層を覆っています。また、都城盆地および川内川上流の西諸県盆地には、約2.2 ~ 2.5万年前に始良火山が大規模噴火した際の火山砕屑物が厚く降り積もったシラス台地が広がっています。

宮崎県の地質案内



写真 1.1 椎葉村仲塔の仏像構造線



写真 1.2 延岡市東方海岸の延岡衝上断層



写真 1.3 日之影町矢筈岳付近の地質



写真 1.4 青島の鬼の洗濯岩

図 1.5 の仏像構造線とは、秩父帯の諸岩類を四万十帯の地層の上へ押し上げている衝上断層です(写真 1.1)。

四万十帯を下部と上部に分けている断層は、延岡衝上断層と呼ばれています。延岡衝上断層は、延岡市東方の海岸から西北西方へ延び、ほぼ東西に走向変化した後、五ヶ瀬川沿いの北方町八峽へ達する断層です(写真 1.2)。

これら 2 つの衝上断層は、現在、活動を継続している活断層ではありません。

県北部の大崩山から祖母山・傾山にかけては、第三紀の中期中新世の大崩山火山 - 深成複合岩体が存在し、大崩山花崗岩体、環状岩脈およびその他の岩脈が、秩父帯の地層と四万十帯の諸塚層群・槇峰層群を貫いています(写真 1.3)。矢筈岳は、主岩脈を作る斑岩が、まわりの地層よりも侵食に対して強いため、山稜を作っています。

県中部に広く分布する宮崎層群は、主に砂岩と泥岩の互層からなります(写真 1.4)。

宮崎層群で形成される日南海岸の地形は、比較的急峻な地形で、鵜戸山塊は海岸まで迫っています。宮崎層群は、雨にもろく崩れやすい地質を持っています。特に、宮崎層群の泥岩は、乾湿の繰り返しによって土砂化する性質を持っており、種々のタイプの土砂災害の原因となっています(国土交通省九州地方整備局ウェブサイト)。

これらの地層を覆って、霧島山の火山群、阿蘇火砕流、始良火砕流、段丘堆積物などの第四系が分布しています。

## 1.4 土砂災害年表と土砂災害分布図

表 1.2 宮崎県的主要な土砂災害年表

No.	発生年月日 和暦(西暦)	誘因	市町村名	発生位置	被害概要
1	大永四年十一月二十三日 (1524.12.28)	火山噴火	小林市	霧島山	霧島山噴火。地震発生で山岳崩壊。
2	寛永十九年八月九日 (1642.9.3)	大雨	西都市	三納	山崩れが発生。河道閉塞、湛水域出現・決壊。以後出水の度に小石が流出、川岸の田畑がみな河原になる。
3-1	寛文二年九月二十日 (1662.10.31)	外所地震	高鍋藩	城下等	城下で山崩れ発生。
3-2			延岡藩		城下に山崩れ、領内沿岸部57町余が海となる。
3-3			佐土原藩		城下に山崩れ発生。
3-4			餓肥藩	沿岸部7ヶ村	城下に山崩れ、沿岸7ヶ村(下加江田,東郡司,福島(元吉村),殿所,新別府村,吉村,下別府村)の周囲7里35町・田畑8,500石余は殆んど海に没した。
3-5			宮崎市	青島付近	大淀川河口、清武川河口、加江田川河口など青島付近で3~4尺地盤沈下。推定4~5mの津波来襲で死者15名。
3-6				赤江	赤江南岸津波により赤江集落移転。
3-7				堀切峠	山崩れ発生。
4	享保六年閏七月三日~八日 (1721.7.26~31)	大雨	岩瀬川流域 大淀川流域	高原町,高崎町 高岡町,野尻町	大洪水が発生し、山間部に堆積していた火山噴出物(享保初期の噴出物)が土石流となり、高原郷から高崎、高岡、野尻郷一帯にかけて多数の死者が出る。
5	享保十九年七月二十七日 (1734.8.25)	大風雨	高鍋町	上江	高鍋城山崩壊、高さ20間、横46間、書院・番所・家老用人奉行所埋没。奥殿南山崩れ、元文三年十一月~四年二月土除去(人足1万1087人)。
6	宝暦十二年八月八日(1762.9.25)	暴風雨	高鍋藩	城下等	山崩れ発生で死者4名。用水路260ヶ所、倒家68戸、田畑損14,561石等の被害。
7	明和六年七月二十八日 (1769.8.29)	日向灘地震	延岡藩	-	延岡藩領内(高千穂など)で山崩れ数十ヶ所発生。家屋全壊13戸、橋梁11ヶ所損壊。しかし、翌二十九日朝まで雷雨、翌々八月一日大風雨洪水、したがって被害を分類しがたい面がある。
8	明和六年八月一日(1769.8.31)	風雨	北方町	曾木	七月二十八日に発生した地震と、八月一日の風雨で山崩れが発生。死者1名。
9	安永七年七月九日~十一日 (1778.8.1~3)	暴風雨	串間市	御手炭山	串間御手炭山崩壊。死者6名、内豊後の者4名。
10	安永八年七月二十二日 (1779.9.2)	暴風雨	串間市	都井	山崩れ発生、百姓死者2名。
11	文政八年八月十三日 (1825.9.25)	風雨	日南市	鶴戸山	鶴戸山本坊三社権現の後ろで山崩れ発生。仁王門は14、5間海へずり出し、大光坊は地下に埋まる。
12	嘉永三年九月一日(1850.10.6)	大雨	諸塚村	各所	荒谷、浦谷、樋の口、すなたの口、琵琶首、天神山、鶯の巣で山崩れ発生。
13	嘉永三年九月二十九日 (1850.11.3)	大雨	高原町	蒲牟田上迫	二十九日夜、土砂崩壊。死者4名以上。
14	嘉永六年八月二日~三日 (1853.9.4~5)	大風雨	諸塚村	各所	立ど屋敷、城山下、局の背戸で大崩壊発生、農作物被害。
15	嘉永七年五月(1854.6)	大雨	高原町	蒲牟田上迫	再び蒲牟田上迫で土砂崩壊。嘉永三年より広範囲で崩壊。転居者続出。
16-1	安政元年十一月五日 (1854.12.24)	安政南海地震	相良藩	-	山崩れ発生。
16-2			宮崎郡	-	山崩れ7ヶ所で発生。
16-3			佐土原・他	-	佐土原で山崩れ及び液状化現象、北方村で山崩れ2ヶ所、南方村で山崩れ3ヶ所、三須村で山崩れ3ヶ所発生。
16-4			高原町	夷守岳	夷守岳の南側とその他多くの岳崩れが発生。
17	明治20(1887)年10月21日	大雨	日南市	吾田町	平野村宇東光寺(現吾田町)で14時過ぎ山崩れ発生。1戸埋没、死者6名。
18	明治24(1891)年10月13~14日	暴風雨	椎葉村	-	家屋埋没5戸。
19	明治38(1905)年8月28~29日	集中豪雨	綾町	中堂,岩坂, 宮谷,町頭	山崩れ発生。
20-1	明治42(1909)年8月1~2日	暴風雨	東郷町	瀬平	人家被害、田畑埋没。
20-2			都農町	川北	立野用水地・西の郡用水地堤防決壊。家屋流失、死者5名。
21	大正元(1912)年10月2日	大雨	北郷村	-	各所で大規模山崩れ、地すべり発生。河川氾濫、全橋梁流失等被害甚大。
22	大正8(1919)年8月	暴風雨	高岡町	浜子	地すべり発生で死者4名、負傷者2名。
23	大正10(1921)年	不明	南郷町	外浦	外之浦寺坂墓地山上で山崩れ発生、墓地流失。
24	大正14(1925)年9月4日	大雨	日之影町	-	崖崩れ発生。人家圧倒、死者2名。
25	昭和10年代(1935~)	不明	東郷町	仲深字久居原	地すべり発生で田畑埋没。
26	昭和13(1938)年10月14~15日	台風	串間市	都井,本城,市木	山崩れ・土石流による被害激甚。農地全滅。復旧工事は困難を極めた。
27	昭和14(1939)年10月16日	台風	清武町	-	台風通過で清武川流域で土砂流発生、死者32名。
28	昭和16(1941)年11月19日	日向灘地震	延岡市	-	崖崩れ発生、人的被害なし。
29	昭和17(1942)年6月22~23日	梅雨前線	小林市	真方	急傾斜地でがけ崩壊発生。死者8名、埋没家屋6戸の大被害。
30	昭和18(1943)年7月19~23日	台風	北郷町	-	小河内川で土石流と地鳴り発生、一瞬に耕地2町歩余を飲み込む。
31-1	昭和18(1943)年9月18~19日		北川町	-	小川大洪水発生、溺死者6名。
31-2			国富町	本庄町字森永	山崩れ発生のため県道交通杜絶(22日より歩行可能)。
32	昭和20(1945)年9月17日	枕崎台風	えびの市	-	求清水流谷口で土砂流発生、進駐兵2名が土砂で圧死。
33	昭和24(1949)年6月20日	デラ台風	日之影町	西日之影	七折村農協前方で崖崩れ発生。死者8名、家屋全壊8戸等の大被害。
34-1	昭和25(1950)年9月13日	キジア台風	南郷村	-	山崩れ被害甚大。
34-2			五ヶ瀬町	室野	山崩れ発生で家屋倒壊1戸、死者1名。

No.	発牛年月日 和暦(西暦)	誘因	市町村名	発牛位置	被害概要
35	昭和26(1951)年7月5～8日	誘因不明+ 梅雨前線	南郷町	大島 竹の尻	5日23時ごろより地すべりが発生。7日夜には200mmの豪雨により、範囲がさらに10m拡大。家屋倒壊5戸、家屋半壊5戸等で全滅。その他田畑も甚大な被害。
36	昭和27(1952)年7月14日	梅雨前線	高千穂町	御塩井	御塩井(十社大明神の禊ぎ場所)で地盤が緩み、14日16時ごろ約400坪が崩壊。五ヶ瀬川 渓流の半分を埋没。人的被害なし。
37	昭和29(1954)年7月13～14日	梅雨前線	串間市	本城町 黒仁田	14日6時半ごろ、高畑山基地工場飯場24坪(木造平屋)が豪雨のため崩れ、就寝中17名生 き埋め、内死者6名。
38-1	昭和29(1954)年8月16～18日	台風5号	高千穂町	向山鶴の平	向山鶴の平5戸が原野崩壊のため埋没。死者3名、行方不明者1名。
38-2			椎葉村	-	耳川上流椎葉発電所工事に従事中の土工飯場が、山崩れのため損壊・埋没し、死者5名、 行方不明者12名。
39-1	昭和29(1954)年9月11～13日	台風12号	椎葉村	大河内本郷 大河内吐野	河川上流地帯各所で地すべり発生、河道埋塞、天然ダム形成。天然ダム決壊で大山津波 発生、大河内本郷地区、吐野地区で死者17名、流失家屋24戸、流失田畑28ha、交通・通 信網途絶等。
39-2			五ヶ瀬町	三ヶ所	三ヶ所一ノ瀬で山崩れ発生で死者1名。
39-3			高千穂町	岩戸、登尾	高千穂町岩戸、登尾で山崩れ発生、上村堤防崩壊で溺死者11名、行方不明者4名。
39-4			南郷村	各所	山肌が裂け土砂を流し上渡川を埋める。まず榎葉谷が全滅。田出原、五色谷、門田、松塚 谷、木浦谷の各谷から土砂が流出。岩石により大川が氾濫し、流失家屋19戸、田畑被害 20町歩。死者3名を出す。災害救助法適用。
39-5			西郷村	-	山崩れ発生、死者3名。
39-6			諸塚村	-	崖崩れ発生、死者4名。
39-7			東郷町	越表字中水流	土石流発生、家屋全壊2戸、8世帯転居。
39-8	昭和29(1954)年9月13日以降		都城盆地	高城町 高崎町 都城市	台風12号の大雨時の降水が、轟ダムによって下流に排出できず、都城盆地内で大洪水を 引き起こした。3500haが浸水、この被害を機に、太郎坊町池島地区34戸が集団移住。轟ダ ムは昭和33年に撤去。
40	昭和29(1954)年11月2日	シラス崩壊	小林市	西小林	貯蔵洞造成中に土砂崩れ発生。死者3名。
41	昭和32(1957)年5月18～19日	低気圧	日之影町	-	国道の土砂460m <sup>3</sup> 崩壊。
42	昭和32(1957)年 6月30日～7月6日	梅雨前線	綾町	-	民家裏で高さ30m、幅20mにわたって崩れ、死者1名。
43-1	昭和36(1961)年2月27日	日向灘地震	高千穂町	-	崖崩れ発生。
43-2			宮崎市	赤江	大淀川沿いや飛行場滑走路で地盤沈下発生。
43-3			小林市	-	崖崩れ発生。
43-4			都城市	-	崖崩れ発生。
44	昭和36(1961)年9月15～17日	第2室戸台風	五ヶ瀬川沿 岸集落	-	土砂崩れ発生、死者6名。
45	昭和36(1961)年11月20～21日	温暖前線	宮崎市	掘切峠	国道日南線の掘切峠南方で大規模崩壊。同峠の約600mの道路左側は、標高120mの山が 9合目付近から幅250mにわたり海岸線になだれ落ちる。
46	昭和38(1963)年2月6日	積雪	五ヶ瀬町	鞍岡	黒峰8合目(標高約1000m付近)で雪崩を伴う山崩れ発生。幅20m×200m、県行造林と民 有林8haが押し潰されるも人的被害なし。
47		不明	都城市	-	山崩れ発生。
48	昭和38(1963)年9月12日	集中豪雨	川南町	通浜	崖崩れ発生、家屋4戸全壊。
49	昭和40(1965)年7月3日	梅雨前線	えびの市	真幸字内笠	22時10分頃、肥薩線真幸駅の西側約2kmの山腹から、白川(川内川支流)に沿って黄土が 大量に流れ出し、山の下の真幸黄土工場の建物4棟合計99m <sup>2</sup> を押し流す。その後の小流 失あわせて計25,000m <sup>3</sup> の土砂が流失し、田畑80aが埋没。
50-1	昭和41(1966)年8月14～15日	台風13号	山之口町	境川	14日、境川鉄砲水発生、青井岳にキャンプ中の青島中学校教師・生徒13人中、教師1名と 生徒8名死亡。青井岳キャンプ場に慰霊碑あり。
50-2			北川町	多良田川	豪雨により土砂流発生。上流で地すべり、山崩れが頻発。多良田川で延長3kmにわたり土 石流のため河川、田畑が埋没。
50-3				下塚	15日、裏山の50m中腹から崩壊。避難所埋没、死者15名。
50-4			南郷村	-	洪水、山崩れ等被害大。
51	昭和43(1968)年2月21日	えびの地震	えびの市	真幸	火山灰地帯で山崩れ多数発生。えびの市で328ヶ所(約75ha)山腹崩壊発生。死者3名、家 屋破損6642戸の被害。京町温泉駅前公園に記念碑あり。
52-1	昭和44(1969)年6月29～30日	梅雨前線	都城市	高野町	地すべり発生、家屋全壊8戸(素因:シラス)。
52-2	昭和44(1969)年6月30日	梅雨前線	三股町	勝岡	30日、町道勝岡池田線のシラス法面崩壊で女子中学生4名死亡。災害現場に慰霊碑あり。
53	昭和44(1969)年7月11日	梅雨前線	日南市	鉄肥山ヶ迫	崖崩れ発生、死者1名。
54	昭和45(1970)年7月22日	シラス崩壊	野尻町	紙屋	国道268号線の擁壁工事現場でシラス崩壊。壁土が崩落、死者5名。
55	昭和45(1970)年7月26日	日向灘地震	延岡市	山月	数ヶ所崖崩れ発生。宮崎県全体では山崖崩れ4ヶ所などの小被害。
56-1	昭和46(1971)年8月29～30日	台風23号	日之影町	見立奥村	29日、山崩れ発生。一家5名死亡。見立の降水量847mmを観測。
56-2			五ヶ瀬町	三ヶ所	30日未明、町立病院裏山が崩壊し、崖下の病棟が埋没倒壊。入院患者、付き添い家族、 看護士計死者6名の大惨事。軍人墓地登り口に慰霊碑建立。
56-3			西米良村	村所	村内いたところで土砂災害発生。村所小学校の体育館も土砂災害で崩壊。村中心地上 流で土砂崩れによる河道横塞、中心地浸水被害。

No.	発生年月日	誘因	市町村名	発生位置	被害概要
	和暦(西暦)				
57	昭和47(1972)年7月6日	梅雨前線	えびの市	真幸字内堅	7月3～6日にかけて集中豪雨。肥薩線真幸駅の裏山8合目付近から崩れ、家屋27戸を押し出す山津波発生。6日14時15分から5回発生、高さ350m×幅280m、30万 <sup>3</sup> m <sup>3</sup> 山地崩壊。死者4名。JR真幸駅構内に約8tの岩石を「山津波記念石」として保存。
58	昭和47(1972)年7月18～26日	台風7号 台風9号	高千穂町	-	田原川、河内川で土石流発生。死者2名、家屋全半壊13戸、小学校半壊1棟。
59	昭和48(1973)年12月	シラス崩壊	高城町	四家字平八重	直径12～15m、深さ20mにわたり地面陥没。住宅破損34戸、町道損壊。
60	昭和50(1975)年6月20日	梅雨前線	日南市	吉野方板床	集中豪雨。吉野方板床地区で地すべり発生。
61	昭和54(1979)年3月12日	不明	日之影町	桂峠付近	桂峠付近、林道開設の床堀作業中、上部からの幅40m×長さ550mの土砂崩壊が発生。作業員5名死亡。
62	昭和54(1979)年3月14日	不明	宮崎市	堀切峠 南方約900m	斜面傾斜20度の斜面、崩壊面積1500 <sup>3</sup> m、崩壊土石量2500 <sup>3</sup> m、深さ1.5mの岩盤すべり発生。道路山側の擁壁(天端幅50cm、高さ5m)破壊、約1ヶ月間通行止め。
63	昭和54(1979)年10月18日	台風20号	高岡町	上倉永	崖崩れ発生、死者1名。
64-1	昭和57(1982)年7月24～25日	梅雨前線	椎葉村	倉ノ迫	24日、崖崩れ発生、死者2名。
64-2				不土野右支川	25日、不土野右支川で100万 <sup>3</sup> m <sup>3</sup> の大崩壊発生。大量の土石流が不土野小学校を経て耳川本川まで流失。県道流失、河川埋塞。
65-1	昭和57(1982)年8月13日	台風11号	西都市	譲葉	大規模崩壊発生(崩壊土砂約300万 <sup>3</sup> m <sup>3</sup> )。一時ノ瀬川河道埋塞、天然ダム形成。
65-2				穂北字平原	山崩れ発生、死者1名。
65-3				中尾	山崩れ発生、死者1名。
65-4				日之影町	宮水・平清水
66	昭和57(1982)年8月26～27日	台風13号	日之影町	-	屋外作業中に土石流に遭遇して1名死亡。町役場の降雨量は612mmを観測。
67	昭和58(1983)年9月27日	台風10号	新富町	-	鬼付女川の氾濫。崖崩れ発生多数、床上浸水家屋242戸、床下浸水家屋457戸等の被害。県道今別府八幡線、鬼付女川江ノ口橋の横に碑あり。
68	昭和60(1985)年6月19～26日、 7月12～13日	梅雨前線	高崎町	木下	10ヶ所で崖崩れ発生。
69	昭和61(1986)年6月5～6日	梅雨前線	綾町	八野字高尾	梅雨前線の活動に伴う集中豪雨(日雨量180mm)により、八野字高尾で幅約100m×長さ約200mの地すべり発生。町道延長130m、畑地を含む山林約2haが被災、交通途絶。
70	昭和62(1987)年10月	不明	日南市	富士	サボテンハーブ園内斜面、傾斜20度地点表土崩壊発生。1ヶ月間全面通行止め。
71	昭和63(1988)年3月1日	不明	都城市	-	地すべり発生。
72	昭和63(1988)年3月30～31日	不明	都城市	-	地すべり発生。
73	昭和63(1988)年5月4日	前線	高千穂町	-	西河内川で土石流発生。行方不明者1名。
74	平成元(1989)年8月	台風11号 台風12号	椎葉村	高塚山	900mmの豪雨で大河内、高塚山中腹林道で既存の亀裂が幅40cm、長さ135mに拡大発生。人的被害なし。
75	平成3(1991)年9月30日	台風19号	椎葉村	楮株山	尾前、楮株山南向き斜面幅120m、高さ180m、約4万 <sup>3</sup> m <sup>3</sup> 崩壊。家屋6戸埋没、流失。住民は避難していたため無事。
76	平成5(1993)年	台風	西米良村	一ッ瀬川上流	一ッ瀬川上流(椎葉村内)で土砂崩れ発生。土石流となり途中のダムを破壊しながら流下。村の中心部で民家が浸水。
77-1	平成5(1993)年7月31日 ～8月2日	大雨	高崎町	大牟田字切藤	7月31日より豪雨。8月1日17時に幅40m、108m、各高さ30m以上の斜面2ヶ所で崩壊発生。家屋全半壊、2人生き埋め、内女性1人死亡。
77-2			高千穂町	河内字栃屋	8月2日7時、幅31m、高さ29mの斜面崩壊発生。家屋流失、3人生き埋め、内男性1人死亡。
77-3			山田町	-	被害総額約4.7億円。役場横のグラウンドに碑あり。
78	平成5(1993)年8月10日	台風7号	北方町	子後曾木	10日4時、幅28m、高さ24mの斜面崩壊発生。土砂が家屋に流入し死者1名。
79-1	平成5(1993)年9月3日	台風13号	小林市	細野大王・豊原	細野大王・豊原地区で土石流発生、死者1名。
79-2			高千穂町	徳別当	斜面崩壊発生、家屋損壊。
79-3			日之影町	根原川	土石流発生。
80-1	平成9(1997)年9月16～18日	台風19号	西郷村	小八重	16日、家屋全壊2戸、床上浸水2戸。
80-2			北川町	川坂	18日、河川洪水、溺死者1名。川坂宮原に慰霊碑あり。
81	平成11(1999)年8月2日	台風7号	高千穂町	-	農地法面崩壊、死者1名。
82	平成15(2003)年8月8日	台風10号	日之影町	大人	家屋全壊1戸。
83-1	平成16(2004)年8月28～30日	台風16号	椎葉村	松尾・仲塔	村内各所で崩壊発生。一時村は孤立状態となる。
83-2			日之影町	西日之影	崖崩れ発生、家屋1戸半壊。
84-1	平成16(2004)年9月4～7日	台風18号	椎葉村	-	土砂崩壊発生、迂回路途絶、再度村は孤立状態となる。
84-2			西米良村	板谷	山崩れ発生、村道山瀬線(旧国道219号)不通。
84-3			高岡町	南城寺	崖崩れ発生、家屋損壊被害。
85-1	平成16(2004)年10月20日	台風23号	北川町	長井	土砂崩れ発生。国道10号線が幅約30m埋没、全面通行止め。
85-2			日南市	富士	20日午後1時頃、市道(旧国道220号線)脇の斜面(サボテンハーブ園の南約300m地点)、幅350m、高さ20～60mの地すべり発生。道路約200mにわたって海岸護岸もとも決壊。サボテンハーブ園前を通る市道(全長約4km)のうち、南側約2km通行止め。平成17年台風14号、同箇所再度土砂崩壊が発生。
85-3			延岡市	三須町・天下町	市全体で23箇所崖崩れ発生、人家に被害。

No.	発生年月日		誘因	市町村名	発生位置	被害概要
	和暦(西暦)					
86-1	平成17(2005)年9月4-7日		台風14号	高千穂町	土呂久畑中	崖崩れ発生、死者1名、負傷者1名、家屋全壊1戸。
86-2				高千穂町	土呂久南	土石流発生、死者4名、家屋全壊1戸。
86-3				日之影町	神影上	崖崩れ発生、家屋全壊8戸、半壊3戸。
86-4				五ヶ瀬町	室野	崖崩れ発生、家屋全壊3戸、半壊1戸。
86-5				椎葉村	上椎葉	土石流発生、死者3名、家屋全壊7戸、半壊2戸。
86-6				西郷村	島戸	塚原ダム下流で地すべり性崩壊発生、崩壊土砂が一時耳川河道閉塞(約350万m <sup>3</sup> 湛水)、人的被害なし。
86-7				山之口町	五反田	住宅裏山崩壊、死者1名。
86-8				三股町	切寄	住宅裏山で高さ15m、幅30mの地すべり発生、死者2名、家屋全壊1戸。
86-9				田野町	鰐塚山	鰐塚山周辺大規模崩壊発生、発生土量は670万m <sup>3</sup> と推測。

(番号は図 1.6 に対応)

本冊子掲載事例

## コラム 土砂災害を意味する地名

呼 称	意 味	県内の事例
アキ	開き(アキ:崩壊で開けたところ。)	秋山
ウメ	埋める(土砂で埋められる。)'梅'文字の表記が多い。	
カケ・カゲ	欠ける、欠げる(山が欠げる=崩壊する。)	神影
カヤ	カヤ・ル(倒れる=崩壊した。)	
クラ	削る(エグル:侵食地形を表す。)	倉谷
クエ	崩れる。クエル	崩の平
コサ・グ	削る、削り落とす	小崎
サレ・サル	崖状の地(ズレル、サレル=地すべり地)	佐礼 去川
スキ・スギ	杉(剥き、削ぎ:はげ落ちることを表す。)	杉安
タキ	滝(崖状になり易い。土石流になることもある。)	
タケ	竹(崖状のところ。)	竹の瀬
ツバ・ツバキ	椿(崩壊、地すべりなどがある。)	
ニシ	躓り(ニジ・リ、踏みにじる)	西平
ヒラ・ピラ	崖・急傾斜地を表す。	平八重
ホケ	崩壊地	
ムギ	剥(ム)ぎ、(は)ぐ、(は)が・す	麦の崎
ユズリハ	揺すり(土地が揺れる。)	讓葉 弓弦葉

この他にも土砂災害を意味する地名があります。

荒・掛・切・越・竜・龍・藪……など。

このような文字を使用している地名は、過去に土砂災害を経験している可能性がありますので、とくに身近にある場合、梅雨・台風期の豪雨時など十分な注意が必要です。

表 1.2 は、歴史時代から現在までに、県内で発生した主な土砂災害を整理した年表です。図 1.6 は、表 1.2 に対応した土砂災害発生地点の分布図です。本県は日本有数の多雨県であるため、降雨による土砂災害は、全誘因のおよそ 77.8%を占めています。また、南海地震や日向灘地震、霧島山の噴火やシラスに起因した土砂災害も発生しています。

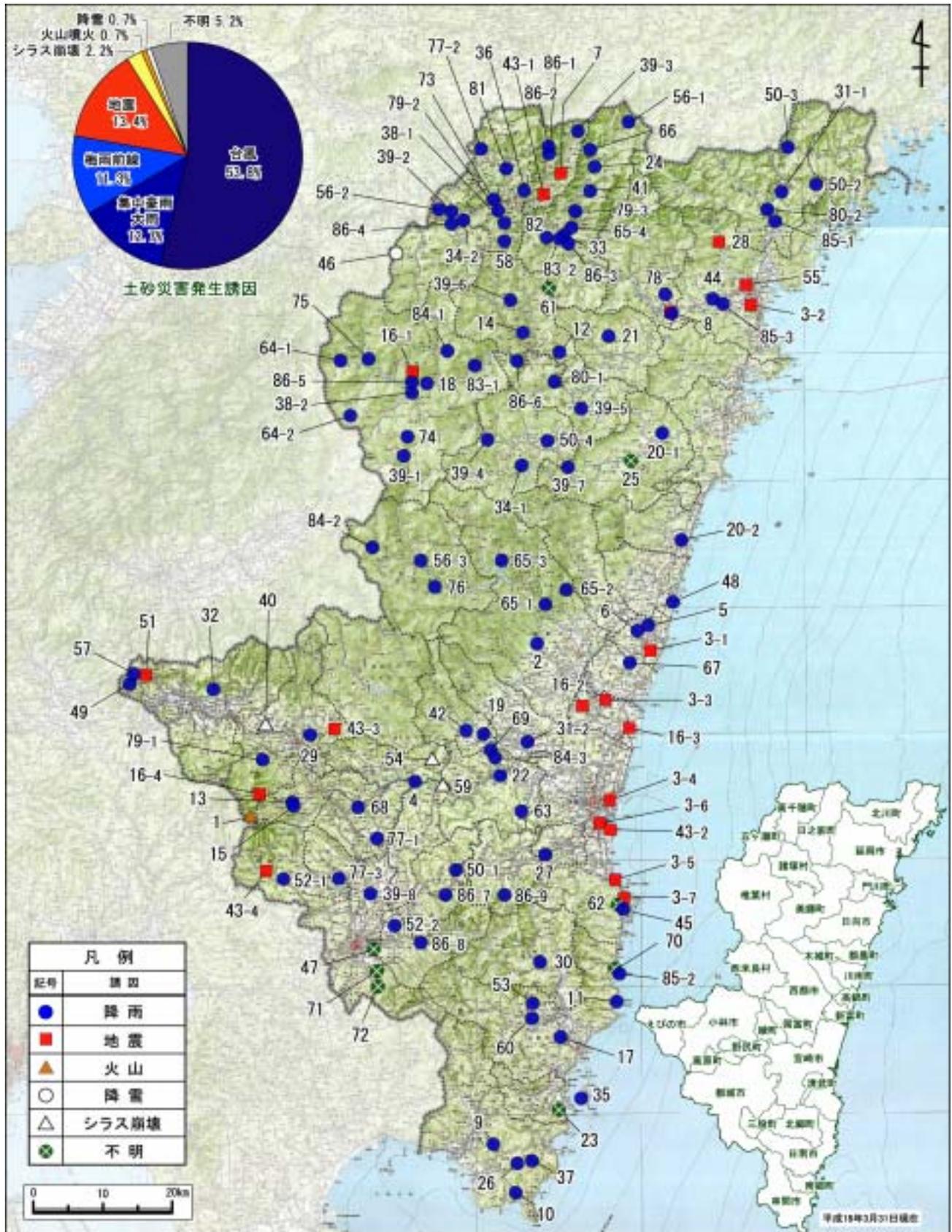


図 1.6 宮崎県的主要な土砂災害分布図(国土地理院 1/200000 地勢図「宮崎」・「鹿児島」・「延岡」・「八代」・「大分」・「熊本」)